

映像記録『名を呼ぶ日』から考える

阪神・淡路大震災から22年が経過しようとする神戸で夜を徹してある試みが行われました。

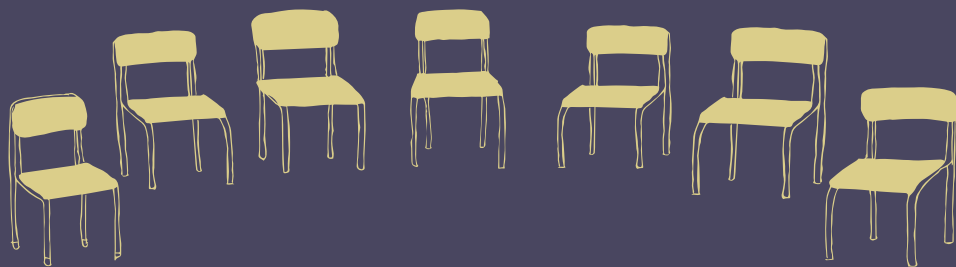
「名を呼ぶ日」は、2017年1月16日の夜8時から翌朝5時30分にかけて、神戸市長田区のふたば学舎(旧二葉小学校)で行われた、震災で亡くなられた方々の名前を読み上げるという試みです。震災のご遺族の方や防災を学ぶ大学生など7名が交代で名前を読み上げていきました。

阪神・淡路大震災では6,434名の方が亡くなったとされていますが、その完全な名簿は公開されていません。そのため「名を呼ぶ日」では、当時の新聞や文献などの資料から確認できる5,585名分の名簿を作成し、読み上げに使用しました。

今回のてつがくカフェでは、「名を呼ぶ日」の全記録映像のうち、最初の1時間を約13分に編集した記録映像を上映した後、「名を呼ぶ日」の参加者を交えて、それぞれが感じたことなどについて語り合いたいと思います。ぜひご参加ください。

高森順子 (「名を呼ぶ日」アーカイブプロジェクト)

西村高宏 (てつがくカフェ@せんだい)



◎ 関連展示

「読むこと、聞くこと、囲むこと：阪神・淡路大震災22年目の試みの記録」

てつがくカフェ開催にあわせて、8時間にわたる読み上げの全映像記録『名を呼ぶ日』と関連資料を展示します。当日の様子をぜひご覧ください。

期間：2018年1月13日(土) - 1月28日(日)
(1/25はお休み)

時間：9:00 - 22:00 (最終日は17:00まで)

会場：せんだいメディアテーク 7f スタジオ a